

# 行政視察報告書

令和5年7月31日

呉市議会議長 殿

呉市議会議員

北川 一 清  
加藤 忠二  
沖田 範彦  
井手 畑 隆政  
岩原 昇

次のとおり行政視察したので報告します。

## 視察の目的

### 1 視察期間

令和5年7月26日(水)～令和5年7月28日(金)

### 2 視察先

- (1) 北海道石狩市厚田区厚田45-5 石狩市役所厚田支所  
北海道石狩市厚田区厚田98-2 マイクログリッドシステム
- (2) 北海道帯広市西23条北1丁目1番1号 十勝バス株式会社
- (3) 北海道札幌市北区東茨戸132番地 株式会社札幌シャトレーズ
- (4) 北海道千歳市東雲町2丁目34番地 千歳市役所

### 3 用務の経過

別紙のとおり

## 用務の経過

### 1 石狩市役所 マイクログリッドシステムについて

#### (1) 日時

令和5年7月26日午後2時から同日午後3時30分までの間

#### (2) 場所

北海道石狩市厚田区厚田45-5 石狩市役所厚田支所

北海道石狩市厚田区厚田98-2 マイクログリッドシステム

#### (3) 対応

石狩市役所企画経済部企業連携推進課 鈴木謙三 同 天野良祐

#### (3) 経過

##### ア マイクログリッドシステムによる再エネルギー構築の背景

厚田区は大規模災害が発生した場合、孤立しやすい地区となり、さらに電力系統が脆弱であることから、これらの問題点を解消するため、平成29年水素戦略構想に基づき水素を活用して低炭素な地域づくり地域防災力向上を同時に実現した。

##### イ マイクログリッドシステムの概要

太陽光発電により地域に電気を供給し、余剰電力を蓄電池に充電また、水素に変換してタンクに貯蔵する。

不足分については商用系統電力を買電する。

電力が遮断された場合は蓄電池の電源を利用。また、水素を利用して発電する。

支所から道の駅までの約1.2キロメートルの自営線を北電柱に共架設置し送電している。なおシステム運用はコンセッション方式としている。

##### ウ 現場視察

厚田支所から約500メートル離れた場所にマイクログリッドシステムが設置されている。

##### エ まとめ

本システムは北海道の「エネルギー」地産地消事業化モデル支援事業」を活用し、総事業費約5億円(10/10 補助)の4ヶ年事業で設

置したものであり、呉市での設置を考えた場合、システムとしては参考になるが、実質は費用が掛かりすぎるがエネルギー地産地消の実現手法としては参考にしたい。

## 2 マルシェバスの取組について

### (1) 日時

令和5年7月27日午後1時から同日午後3時までの間

### (2) 場所

北海道帯広市西23条北1丁目1番1号 株式会社十勝バス

### (3) 対応

北海道帯広市西23条北1丁目1番1号 株式会社十勝バス

取締役執行役員事業本部長 長沢俊彦

### (3) 経過

#### ア 視察目的及び事業の背景

十勝・帯広オールドニュータウン再活性化事業におけるモビリティ実証として行われた事業であり、この事業がNHKのニュースで放映されたことで呉市でも事業化できるのではないかとということで視察をおこなった。

#### イ 実証結果と問題点

十勝バスの収入の多角化を目指す実証実験として行ったものであり、マルシェバスとしてはまずまずの結果あったが、クリアする法律制度が多すぎる。

また、実証実験が12月から2月の厳冬期に行われたこともあり、高齢者の外出が少なかったにも関わらず1日平均約6万円の売上げがあったことは評価できる。実証実験では販売委員を同乗させていたが事業化に際しては人件費の問題が大きい。

#### ウ まとめ

呉市での導入として考えられるのは安芸灘4島における宅配を現在運行されているバスに転用できるのではないかとと思われる。なお、その際には客と貨物の混載や旅客事業と貨物事業の共存等検討課題

が残る。

### 3 株式会社札幌シャトレーゼ

#### (1) 日時

令和5年7月28日午前10時から同日午後0時までの間

#### (2) 場所

北海道札幌市北区東茨戸132番 株式会社札幌シャトレーゼ

#### (3) 対応

北海道札幌市北区東茨戸132番 株式会社札幌シャトレーゼ  
専務取締役 小川賢志

#### (3) 経過

##### ア 視察の目的

呉市安浦町にあるグリーンピア安浦を株式会社シャトレーゼが買収し経営を行う予定であることから現状視察した。

##### イ 経営及び運営

ホテルには宿泊施設やレストランの他、プール、サウナ、ケーキ工場等を併設しており従業員は600人を雇用している。

##### ウ まとめ

呉市においてもケーキ工場を併設するとのことで札幌のホテルと同様の運営手法と予想されることから安浦町の活性化が図られるものと期待する。

なお、地産食材の活用や地域との共存に留意した運営になっていることから呉市の場合も安心して運営を任せられるものと考える。

### 4 千歳市役所 汚泥の再利用・循環活用の取組について

#### (1) 日時

令和5年7月29日午後1時から同日午後3時までの間

#### (2) 場所

北海道千歳市東雲町2丁目34番 千歳市役所

#### (3) 対応

千歳市役所水道局下水道整備課課長 舘澤成徳

#### (3) 経過

## ア 背景

千歳市は昭和51年浄化センター共用開始から汚泥を肥料として活用、平成7年からは土壌改良材として農地利用するなど有効活用している。

その後、平成25年で緑農地利用を終了し、セメントや肥料の原材料として委託処分している。

なお、平成15年新たな汚泥処理施設(スラッジセンター)をゴミ焼却施設の近隣に建設し廃熱を利用して汚泥の乾燥処理を終了し、令和6年度以降は濃縮・脱水した汚泥を全量肥料化するため委託処分することとしている。

## イ まとめ

現在、肥料価格が高騰していることから安価な肥料の要望があり、呉市においても汚泥利用を考える必要がある。